



本はともだち

～山口県子ども読書支援センターニュース～ No.198 2026.2.28発行

山口県子ども読書支援センター
(山口県立山口図書館) 発行
TEL083-924-2113 FAX083-932-2817
<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/>

【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース～」配信中！】

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。
読者登録の方法は県立図書館・山口県子ども読書支援センターのホームページをご覧ください。

<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/kodomocenter/>

【山口県立山口図書館から】

令和8年1月19日（月）から照明のLED化工事のため臨時閉館しています。
利用者ゾーンの工事終了に伴い、令和8年3月3日（火）より通常どおり開館します。

【山口県子ども読書支援センター行事】

*各イベントの詳細については、当センターのホームページよりご確認ください。 ⇒



★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

- 日時：令和8年3月10日（火）11:00～11:20
- 会場：山口県立山口図書館 第2研修室
- 対象：幼児
- 定員：10組程度

◎連絡先：山口県子ども読書支援センター

（電話：083-924-2113 FAX:083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『おっととと』 柿木原政広/作 福音館書店 2026.1 ¥900

あかまるつみきのはるちゃんが、のっていたつみきからおっこちそうになって、おっととと。みどりまるつみきのこーくんが、さんかくつみきのでっぺんからころがって、こっととと。「あっとちよっと」「がったごっと」など、リズムカルな言葉の連続がハラハラ感を高める、声に出して読みたい写真絵本。月刊絵本『こどものとも0.1.2.』2016年12月号を単行本化。

<絵本-3, 4歳から>

『ゴシゴシどろんこトラック』 ミノオカリョウスケ/作 文溪堂 2026.1 ¥1500

カワウソのゴシゴシのしごとはのりものそうじ。どろんこになったのりものたちも、どろをあらいながしてみがいたら、スッキリさっぱり。おれいにてつだってくれるみんなとちからをあわせて、さいごはおおものをピカピカにしよう。汚れをパワフルに吹き飛ばす爽快な絵本。巻末に、鎌倉女子大学短期大学部専攻科と協働して制作された楽曲「ゴシゴシどろんこのうた」の楽譜あり。

『パタパタどうぶつえん』 岡田善敬/さく タケウマ/え ブロンズ新社 2025.12 ¥1200

ここはどうぶつえん。ググッと伸びをするトラや、ぴょんととびはねるサルたち、ドンドコドンドコとむねをたたくゴリラ…いろいろなどぶつたちがくらししているようすをみてみよう。見開きの間の短いページをめくると絵が変わり、のびやかな線で描かれた動物たちがいきいきと動き出す。くり返し開いて楽しめるしかけ絵本。じぶんでうごかす「パタパタ絵本」シリーズ第1弾。

<絵本-5, 6歳から>

『おもいでいろのねこ』 PEIACO/作・絵 Gakken 2025.12 ¥1500

ぼうやがうまれたところからずっとなかよしのミルクは、しろねこのぬいぐるみ。あたらしいしろくまのぬいぐるみがやってきて、じぶんがふるぼけてはいろいろみえることに気づいたミルクは、もとのまっしろにもどりたくて…。汚れに宿る思い出のかけがえのなさを描く絵本。『しろねこのミルク』（『がっけんおはなしえほん にじ』2024年12月号）を一部加筆して単行本化。

『わたしがすきなもの』 たけうちひろ/作 アリス館 2025.11 ¥1700

それぞれのかぞくのもとにうまれたあかちゃんたち。さっちゃんがすきなものはタオル、ともちゃんがすきなことはおさんぽ。きょうりゅうにすなあそび、さかなのずかん…きょうからはじまるしょうがっこうで、すきなものはふえるかな。見た目も家族構成も十人

十色な家庭の中で、それぞれの「すき」を見つけながら育っていく子どもたちの姿を追った、入学時期にすすめたい絵本。

<絵本—小学校低学年から>

『うらがわともだち』 河原久美子/作 BL出版 2025.12 ¥1600

むしがすきで、やすみじかんにはいつも、うんどうじょうのうらのしげみやきょうしつのカートンのうらにいる「わたし」。むしにはなしかけることはできても、みんなのまえではことばがひっこむ「わたし」だが、としょかんで、むしのほんをよんでいたことがきになり…。好きなものを通じて一歩踏み出す絵本。第41回「日産童話と絵本のグランプリ」絵本大賞受賞作を改題し出版。

『ナランはふとっちょさん』 パーサンスレン・ポロルマー/作 津田紀子/訳 工学図書 2025.12 ¥1800

ナランは山のいえでどうぶつたちとくらす女の子。町の女の子たちにふとっちょだとわらわられて、みんなとおなじにならばだれもかからなかったりしないはずだとかんがえる。やせてふくやかみがたもかえ、町の女の子たちともだちになったが、なんだかたのしくなくて…。自分らしく生きることの大切さを描く絵本。2013年ボローニャ国際絵本原画展の入選作品を再構成して書籍化。

<絵本—小学校中学年から>

『山がめざめて』 マット・シャンクス/作 梨木香歩/訳 ひさかたチャイルド 2025.12 ¥2000

あるときせかいがはじまり、ひとつの山があらわれた。山は、さまざまのいのちがかなでるうたをききながらねむりについた。何おくねもたったある日、うたがきえ、めざめた山は、うたをさがしに旅にでる。石と砂ばかりのせかいをせんねんあるきつづけて、ついに1りんだけさいた花をみつけ…。コマ割りを多用し、長大な時間の流れや命の再生のサイクルを力強く表現した絵本。

<絵本—中学生から>

『ブランコ』 ブリッタ・テッケントラップ/作 梨木香歩/訳 岩波書店 2025.11 ¥3800

海辺の丘でたたずむブランコ。一人で訪れる人、二人やみんなで訪れる人。漕ぐ人、座って遠くを見つめる人、憩う人。喜びや悲しみ、寂しさ、思い出、冒険、夢。花や虫、動物たち…。時間や季節が移ろう中いつもそこにあって、訪れる人びとの営みに寄り添い続けてきたブランコの記憶を、約150頁にわたり淡く美しい絵と詩情豊かな言葉で書き出した絵本。総ルビ。

<読み物—小学校低学年から>

『おにのやくそく』 やまだともこ/作 モカ子/絵 PHP研究所 2026.1 ¥1300

友達も少なくおとなしいかいとの家に、突然鬼のまたべえが遊びに来た。トランプで負けたかいとに、またべえは自分の角を引っこ抜き、磨いて欲しいと約束を取り付ける。毎日通ってくるまたべえに角を見せるが、受け取らない。ある時、かいとは角を磨かないまま、次の日を迎えて…。約束を守ることの大切さや、失敗から前向きな気持ちになる過程を優しく伝えてくれる一冊。

『学校にひそむきみんもんつき』 とみながまい/作 大串ゆうじ/絵 福音館書店 2026.1 ¥1400

小学生の持ち物につきまとう「きみんもんつき」。妖怪ほど怖くなくて、妖精ほどかわいくない。持ち物を愛するあまり持ち主を困らせて…。けしゴムをポケットにしまう「けしゴムごぞう」、赤白帽子が大好きな「こうはくおろち」、知らない間に潜り込む「ランドセルヤドカリ」など、少し不思議な8種類のきみんもんつきがユーモアいっぱい描かれる。

<読み物—小学校中学年から>

『テムズ川宝さがしクラブ①川底のひみつの街』 カチャ・バーレン/作 レイチェル・ディーン/絵 ないとうふみこ/訳 徳間書店 2026.1 ¥1700

ロンドンに住む女の子クレムと、友だちのザラ、アッシュは、博物館が主催する「テムズ川宝さがしクラブ」のメンバー。ある日、いつものようにテムズ川の干潮時、川岸の泥の中からパイプやガラスのかけらなどを拾う。ところがその後から、テムズ川の周りで異変が起きはじめる。それはクレムがあるものを拾ったせい…。カーネギー賞受賞作家による不思議な世界の冒険物語。

『呪われたケータイ』 あみ・牛抱せん夏・黒木あるじ・黒史郎・つくね乱蔵/作 金の星社 2025.12 ¥1500

隣町の廃病院から帰ってきた夜に届いた知らない番号からのショートメール。撮った覚えのない写真が映るキッズ用ケータイの画面。突然途絶えた友達との通話…。怪談師、怪談作家など5人の著者による、電話にまつわる怖くて不思議な話18編を収録。作者のひとり、あみ氏は、山口県出身で怪談師・司会MC・ラジオパーソナリティ等としても活動する。

<読み物—小学校高学年から>

『春の雨にぬれて、獅子はおどる』 岳明秀/作 いとうあつき/絵 講談社 2025.11 ¥1500

東京から雪深い岐阜の千鳥川に突然引っ越しすることになった5年生のナオコ。打ち込んでいたサッカーをやめることになり落ち込んでいた。新しい環境に戸惑いつつも友達ができ、地域の伝統芸能の獅子舞に興味を持つが…。地域の根深い確執に怯みながらも必死で食らいつき、自分らしさを貫く少女の青春物語。第27回ちゅうでん児童文学賞大賞作品。

『おやすみ、悩み糸』 久米絵美里/著 久米火詩/絵 アリス館 2025.12 ¥1750

失敗することや他人から嫌われることを恐れている小学6年生の紗良沙（さらさ）。ある朝、枕の下から絡まった黒い糸を見つけ捨てられずにいるとクラスメイトの寧人（ねいと）に声をかけられる。その糸は頭の混乱が原因になって現れたもので…。「悩み糸」をほどこうとする中で、悩みをきっかけに友との絆を深め、悩むことと向き合い成長する少女の物語。

<読み物—中学生から>

『逃げる田中』 石川宏千花/作 光村図書出版 2025.12 ¥1500

中学1年の男子、曾我以印(そがしいん)は、ある日目の前を脱兎のごとく駆けるクラスメイトの女子田中さんを目撃し…。おじいさんや同級生、犬など様々なものから逃げる田中さん。田中さんのことが気になる以印が追いかけた先で体験するちょっと不思議な出来事と、2人の間に芽生える信頼をユーモラスに描く。季刊誌『飛ぶ教室』連載に加筆修正し描き下ろしを加え単行本化。

『SSR チルドレン』 百舌涼一/著 講談社 2025.11 ¥1650

両親に複雑な感情を抱く中学1年の女の子汐(しお)と、その幼馴染で代々町の中心的存在である一家「富岡家」の佑大。2人は山梨県の離島から引越してきた転校生の美玖と友達になり、祖父母の住む離島へ夏休みに帰省するという美玖に同行するが…。家や家族のことで悩む少年少女が、友情を育みながら次第に互いの事情や思いを知り成長していく物語。著者は山梨県出身。

『崖の上のヒバリたち』 シヴォーン・ダウド/著 エマ・ショード/絵 宮坂宏美/訳 東京創元社 2025.12 ¥2200

親や親族と集団移動生活を送るジムは、アイルランドの集落で学校に通い始める。クラスの女子キッドに惹かれ、文字を少しずつ覚えるジムだが、差別や暴力、住居であるトレーラーハウスの立ち退き通知などの排除に晒され…。人権擁護活動に長年携わった著者の初出版のフィクション。2004年に短編集の一編として発表後、2017年に絵を加えてグラフィックノベル化。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『ひつじのぼうし』 おがたれいこ/さく はらかずお/しゃしん 誠文堂新光社 2026.1 ¥1400

ひつじてなあに?ひつじをみこいこう!ふわふわもこのひつじの「け」。のびたらどうするの?羊の毛が、刈り取られてから、紡がれ、毛糸の帽子になるまでの工程を穏やかな視点で撮影された写真で紹介。子どもの言葉で語られる疑問に、温かい言葉の返答が綴られる。手芸への興味を誘う写真絵本。巻末見返しに、帽子の編み方の図説を掲載。

『絵本ってどうやってつくるの?』 ダニエル・ナップ/作 若松宣子/訳 ほるぷ出版 2025.11 ¥1800

子どもの本の作家のキツネ、ペトラが、イラストレーターのアナグマのユリウスと一緒に絵本を作ることに。ペトラが進行役となり、物語の着想から、出版社との企画立案、執筆、印刷、製本、発送、販売など、絵本ができるまでの過程が丁寧にわかりやすく物語として紹介。出版の専門用語は平易な言葉と絵で解説。本づくりの工程を学べる1冊。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『図解乗り物の歴史』 モリナガヨウ/作・絵 金の星社 2025.12 ¥1800

人類が発明してきた乗り物を「陸」「川・海」「空」の3つに分けて、古いものから新しいものへと順に紹介する。そり、蒸気機関車、自転車、丸木舟、帆船、戦艦、熱気球、飛行機、スペースシャトル等の乗り物を綿密なイラストで描く。使われたり開発された時期や乗り物の特徴を分かりやすい言葉で解説する。乗り物にまつわるコラムや豆知識の掲載あり。

『ヘレン・ケラーとかわした手紙』 横田明子/作 文研出版 2025.12 ¥1600

風邪がもとで19歳で失明した武夫は、点字と出会い学問を志す。英国留学をきっかけに日本の障害者福祉の遅れに気付いた武夫は、1935年「日本ライトハウス」を設立、視覚障害者の自立支援等の福祉事業に取り組む。また三重苦を克服したヘレン・ケラーに來日を依頼し、生涯にわたり親交を深める。日本ライトハウスの創業者、岩橋武夫の生涯を描く。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『おやつのおぼうさん』 井出留美/著 坂内拓/絵 くもん出版 2025.12 ¥1500

祖父が住職を務める奈良の寺で育った松島少年は「おぼうさん」になることに納得がいかず、引きこもったり高校を中退したり…。様々な人に出会い企業に勤めるも、自分にしかない生き方として住職を継承することに。やがて、子どもの貧困と食品問題と向き合い、NPO法人おてらおやつクラブを設立する。全国にも広がる安養寺住職松島さんの活動を紹介。

『ABCで調べるアルファベット略語辞典』 深谷圭助/監修 あかね書房 2026.1 ¥4500

街やテレビ、学校やお店の中でよく見かけるアルファベット。その中には長い言葉を数文字のアルファベットにして短く表した言葉も多い。「JR」は「Japan Railways」「PC」は「Personal Computer」等。アルファベット略語の正式名称や言葉の意味を、写真やイラストとともに紹介する。言葉を調べるだけでなく、辞典を読む楽しさを感じる1冊。

<ノンフィクション—中学生から>

『校則と子どもの権利』 佐藤香代 [ほか]/著 まえだたつひこ/絵 子どもの未来社 2025.12 ¥1500

学校の校則やルールって何のためにあるの?見直したい時どうするの?学校の問題に関わる4人の弁護士が、校則について人権や法律の観点から分かりやすく解説。校則に関する疑問や「人権」「子どもの権利」との関わり、性的マイノリティなど少数者にとっての校則を考え、見直す際の参考になる1冊。巻末に、本文中の掲載ページ情報とともに関連法律や通知等を掲載。

『山へ行った画家が丸太の弁当をつくって林業の応援活動をはじめた話』 牧野伊三夫/絵と文 あかね書房 2025.11 ¥1600

画家である著者は、「山できこりを描きたい」と林業がさかんな大分県日田市を訪ねる。そこで思いがけず集まった仲間と林業の応援団「ヤブクグリ」を結成し、丸太のイカダで川を下ったり、ゴボウを丸太に見立てた「きこりめし弁当」を作ったりとユニークな活

動を展開。好奇心をきっかけに多様な人が繋がり、新たなアイデアや仕事が生まれていく様子を描くノンフィクション。

<研究書>

『子どもと本をつなぐ 子ども文庫と私立図書館』 汐崎順子/著 玉川大学出版部 2025.10 ¥2800

戦後全国に広がった子ども文庫、石井桃子・土屋慈子・松岡享子の家庭文庫が合体して設立した「東京子ども図書館」の理念と活動、東日本大震災後の岩手県陸前高田市で生まれた文庫等。アンケートやインタビュー調査を踏まえ、「子どもに楽しい読書の経験をさせたい」と、子どもの読書環境を支える私設の子ども文庫や私立図書館の役割や可能性について考察した1冊。索引あり。

『科学的根拠 (エビデンス) が教える子どもの「すごい読書」』 猪原敬介/著 日経BP 2026.1 ¥1800

読書に価値はあるのか？読書で頭はよくなるのか？効果的な読書の実践とは？読書に関する様々な迷いについて多くの資料を科学的根拠とし、読書の効果を解説する。生活の中でのより実践的な「読書」の方法を取り上げ、子どもの読書環境を充実させる手立ても数多く紹介する。子どもの「一生ものの本」との出会いを応援する1冊。著者は教育心理学と認知科学を専門とする研究者。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索 (OPAC) では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。

<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary/>

※子どもの本や読書についてのイベント情報をお寄せください

発行：山口県子ども読書支援センター (山口県立山口図書館内)

〒753-0083 山口市後河原150-1

TEL:083-924-2113 (直通) FAX:083-932-2817

ホームページ：<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/>

Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp
